

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成20年11月12日(水) 5校時
児 童 男17名 女14名 計31名
指導者 山本かおる

- 1 単元名 大事なことをたしかめよう
- 2 教材名 「すがたをかえる大豆」「食べ物はかせになろう」(光村3年 下)

3 単元の指導目標

【関心・意欲・態度】

本での調べ方を知り、身近な食べ物について知識を得るとともに興味を広げる。

【読むこと】

段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解する。(イ)

内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読む。

(オ)

【言語事項】

文章全体における段落の役割を理解する。(オ(イ))

4 単元について

第3学年及び第4学年における「C読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書をしようとする態度を育てる。」ことである。本教材では、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと」について主に扱う。

本単元は、説明的文章教材を段落や重要語句に注意しながら読み取る学習と、教材文の内容を参考に、自分で調べたいものを選んで、それに関する情報を集めて文章にまとめる学習から構成されている。

本教材「すがたをかえる大豆」は、納豆や醤油や豆腐などの身近な食べ物が、どれも大豆という同じ植物の種から作られているという子どもにとって意外な事実が述べられており、固くてそのままでは食べにくく、消化も良くない大豆がいろいろと手を加えられておいしく食べられるくふうが説明されている教材である。

「はじめ」に話題提示がされ、「中」では「次に」「また」等の接続語を使いながら「いろいろ手をくわえておいしく食べるくふう」が書かれ、「終わり」に「このように」という接続語でまとめや筆者の考えが書かれているため、非常にわかりやすい文章構成となっている。また、「中」の各段落を見ても「おいしく食べるくふう」が書かれた後でその作り方が詳しく書かれているというわかりやすい文章となっている。

これらの接続語や「くふう」等の重要語句を手がかりに気をつけながら読む活動をすることで、確かな読みを育成することができると思う。

また、複合教材「食べ物がかせになろう」では、「すがたをかえる大豆」の学習を生かして、自分の興味ある食べ物について調べる視点を明確にしながら、本などから必要な事柄を調べ、集めた情報を文章にまとめる活動へと進めていく。

5 児童の実態

児童は、これまでに読むことの学習として、2年「たんぼぼのちえ」では時間的順序の文章、「サンゴの海の生き物たち」では解説型の文章、3年1学期の「ありの行列」では段落という概念を学び、まとめり（段落）に気をつけて読み、内容をとらえる学習を行った。また、「問いかけはどこか」「筆者の考えやまとめはどこか」を考えることで、はじめ—中—終わりといった文章構成を考えるような力は、まだ不十分である。接続語や文末表現等、言語事項についての理解が十分でない児童も少なくない。

事前テストでは、文脈を捉えて適切な接続語を選ぶことや、叙述に即して文章の内容を正しく読み取ることの正答率が低かった。したがって、この単元の学習では、接続語や指示語、重要語句に着目して、文章を正しく読み取る力をつけさせたい。

6 指導にあたって

本教材「すがたをかえる大豆」の指導にあたっては、まず始めに単元全体のねらいを知らせるとともに学習の見通しをしっかりと持たせたい。学習のゴールを「食べ物がかせになろう」とし、そのことを目指して学習を進めていくよう意欲付けを図りたい。また、大豆の実物を見せたり触れさせたりすることで、これから学習する大豆についての関心を高めたい。さらに、写真や挿絵を活用し、本文と対応させながら理解を深めていきたい。

既習教材「ありの行列」では、「段落の中で中心となる文や大事な言葉に気をつけると内容をとらえやすい」ということを学んだ。そこで学習したことを生かしながら、本教材でも、読み取ったことをまとめる活動を行っていききたい。その際、「おいしく食べるためにどのようなくふうをしているのか。」等、読み取った観点をはっきりさせるとともに、文末表現なども押さえながら読み進めていきたい。また、叙述に即して内容を正しく読み取らせるため、指示語や接続語にも着目させ、それらのはたらきと事柄を結びつけて考えさせながら、論旨の展開を押さえたい。

一人学びにおいては、「おいしく食べるためのくふう」が書かれている文にサイドラインを引く活動、食品を抽出する活動、表に整理する活動を行う。その後の学び合いでは、一人学びを生かしながら話し合いが深まるよう、支援していききたい。

「食べ物がかせになろう」の学習では、「調べることを決める」「本を探す」「本の中から調べたい事柄を選び出す」「必要な事柄を書き写す」「文章の構成を考える」「文章にまとめる」等細かいステップで指導を行っていききたい。特に、構成を考え、文章にまとめる活動では、「すがたをかえる大豆」で学んだことが生かされるよう意識して指導していききたい。

7 指導計画と評価規準

段階	時間	学習内容	評価規準
			【】 評価の観点 () 評価方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読み、心に残ったことや知りたいこと等感想を持つ。 新出漢字の読み方、筆順を知り、音読練習をする。 	【関】 興味を持って文章を読み、疑問や気づきをもとに感想を書こうとしている。(観察、ノート)
	2		
二	3	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立て、学習の見通しを持つ。 はじめ、中、終わりの3つに分ける。 	【読】 つなぎ言葉をもとにしながら、3つのまとまりに分けている。(ノート)
	4	<ul style="list-style-type: none"> はじめ(形式段落①②)を読み、話題提示をとらえる。 	【読】 話題提示をとらえている。(サイドライン、発言、ノート)
	5	<ul style="list-style-type: none"> 中(③)からおいしく食べるくふうを読み取り、中心文を見つける。 	【読】 おいしく食べる食品について正しく読み取っている。(サイドライン、発言、ワークシート)
	6	<ul style="list-style-type: none"> 中(④⑤⑥⑦)から大豆をおいしく食べるくふうを読み取り、中心文を見つける。 	【読】 おいしく食べる食品について正しく読み取っている。(サイドライン、発言、ワークシート)
	7	<ul style="list-style-type: none"> 終わり(⑧⑨)を読み、おいしく食べるくふうが考えられた理由を箇条書きにする。 	【読】 大豆のよさや筆者の感想について読み取っている。(サイドライン、発言、ノート)
	8	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係をとらえる。 	【読】 段落相互の関係をつかむ。(ノート)
	9	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物辞典を作るための学習計画を立てる。 	【関】 食べ物辞典を作ることに興味を持っている。(観察、ノート)
	10	<ul style="list-style-type: none"> 調べる食べ物と調べる内容を決める。 	【書】 目的に合わせて調べたいことをいくつか書き出している。(ノート)
三	11	<ul style="list-style-type: none"> 調べる方法を考え、本等での調べ方を理解する。 書く必要のある事柄を収集したり選択したりする。 	【関】 読み物や図鑑などの活用に興味を持ち読もうとしている。(観察)
	12		
	13	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係を考えて、考えが明確になるように説明文を書く。 	【書】 必要のある事柄を収集したり選択したりしている。(カード)
	14		
	15	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物辞典を読み、評価し合う。 	【書】 伝えたいことが明確になるように考え、段落を分けて文章にまとめている。(ノート)
	16		
	17		
	18	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物辞典を読み、評価し合う。 	【関】 互いの作品に興味を持って読もうとしている。(観察、発言)

8 本時の指導（6 / 18）

（1）目標

【読むこと】大豆をおいしく食べるくふうを読み取る。

（2）本時の具体の評価規準目標

A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する児童への手だて
大豆をおいしく食べるくふうについて、中心語句に気をつけながら一つ一つの段落を正しく読み取っている。	大豆をおいしく食べるくふうについて正しく読み取っている。	くふうについてまとめている文の言葉を示し、大豆を使った食品の写真を見せながらまとめさせる。

（3）本時における書く活動の位置づけ

- ・中心文を見つけるために、「くふう」という言葉に着目してサイドラインを引く。
- ・「くふう」とその「くふう」によって作られる食品を整理するために、ワークシートに書く。

（4）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（☆評価）
つかむ	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 5分 大豆をおいしく食べるくふうを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時③段落の学習を想起し、学習課題の確認につなげていく。 ・課題を確認する。 ☆課題をつかむことができたか。
深める	3 学習の見通しを持つ。 ・学習の流れを知る。 4 本時の学習場面を音読する。 （段落④⑤⑥⑦） 5 ④から⑦までの接続語について確認する。 6 一人学びをする。 ・各段落の中心文にサイドラインを引く。 ・おいしく食べるくふうによって作られる大豆食品を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に着目して④から⑦の段落の文章を考えていくことを確かめる。 (1)おいしく食べるくふうとしてまとめて書いてある文はどれか。 (2)大豆の食品の例としてあげられたものは何か。 ・課題に関わる文章を意識させながら音読をすすめ、一人学びに結びつけていくようにする。 ・各段落の接続語についてその意味を考えさせながら見つけさせ、そのつながりを考えて記入させる。 ・くふうを見つけてサイドラインを引かせる。 ・そのくふうによって作られる食品をはこで囲み書き写させる。

	<p>7 学び合いをする。</p> <p>◎おいしく食べるくふうが書いてある文はどれか。</p> <p>◎大豆の食品の例としてあげられたものは何か。</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>9 まとめを音読をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの一人学びの状況を把握して支援をする。 ☆「くふう」という言葉に着目しながらサイドラインを引くことができたか。 友だちの発表を聞きながら、自分がサイドラインを引いた文と読み比べ、確認する。 板書をもとに大豆をおいしく食べるくふうをふり返る。 ☆学び合ったことをもとに大豆をおいしく食べるくふうがわかったか。(ワークシート) 内容を伝えるような気持ちで音読させる。
まとめ	<p>10 自己評価する。</p> <p>11 次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> おいしく食べるくふうがわかったか。 話す、書く、聞くができたか。 ☆本時の学習についてふり返ることができたか。(挙手) 段落⑧⑨の大豆のよさや筆者の感想について読み取っていくことを確認する。

(5) 板書計画

⑦	⑥	⑤	④	③	罨	・おいしく食べるくふうが書かれている文 ・食品	すがたをかえる大豆 国分牧衛 大豆をおいしく食べるくふうを読み取る。
ふう 取り入れる時期や育て方をく もやし えだ豆	これらのほかに う食品にするくふう しょうゆ	さらに 小さな生物の力をかりてちが みそ	また えいようだけを取り出して、 とうふ	次に こなにひいて食べるくふう きなこ	いちばん分かりやすいのは 形のままいたり、やわらか いたり豆 に豆		